農　林　水　産　省
畜　産　局　飼　料　課
令和８年５月８日公表

飼料用米、ＷＣＳ用稲、飼料作物の生産・利用に係る意向アンケートの調査結果について

令和９年度以降の水田政策の見直しに向けて、水田を活かした飼料用米、WCS 用稲及びその他の飼料作物の生産・利用の意向等に関するアンケートを実施し、飼料用米・稲 WCS・飼料作物を利用する畜産農家から 1,611 件、水田活用の直接支払交付金を活用している飼料用米・WCS 用稲・飼料作物の生産者から 3,074 件、地域再生協議会から 809 件のご回答をいただいた。

【調査内容】

〈アンケート項目〉
- 畜産農家対象：飼料用米及び国産粗飼料の利用状況や利用意向
- 飼料用米、WCS 用稲、飼料作物生産者対象：生産における経営形態、生産に係る意義・メリット、畑地化の意向、今後の作付意向
- 地域再生協議会対象：地域計画での位置付け、地域における意義、維持・推進上の課題　など

〈アンケート方法〉インターネット上のフォームを用いたアンケート

〈実施期間〉令和 7 年 9 月 16 日から 11 月 30 日まで

【調査結果の概要】

１　飼料用米・稲ＷＣＳ・飼料作物を利用する畜産農家向けアンケート

①　飼料用米の利用状況

飼料用米を利用している割合は、豚、採卵鶏、肉用鶏において高く、豚、採卵鶏では半数以上が国産飼料用米を使ったブランド化に取り組んでいると回答。

入手方法については約６割が「生産者や農協等からの購入」と回答。

②　飼料用米の利用継続意向

肉用牛（肥育）、豚、採卵鶏の３～４割が「代替飼料よりある程度高くても利用を続ける」と回答。

③　国産粗飼料の利用状況

乳用牛、肉用牛のうち、稲 WCS は６～７割、牧草は６～８割が「利用している」と回答。青刈りとうもろこしは乳用牛で約４割が「利用している」と回答。

④　国産粗飼料の利用意向

全ての作物において、現在利用している畜産農家のうち「現在よりも利用を増やしたい」、「現状程度利用を続けたい」との回答が約９割。

２　飼料用米・ＷＣＳ用稲・飼料作物の生産者向けアンケート

①　生産者の経営形態

飼料用米は約９割、WCS 用稲は約７割、牧草は約３割、青刈りとうもろこしは約４割を耕種農家が生産。

②　生産の意義・メリット

飼料用米生産者の半数以上が「既存の機械を活かして生産ができる」、約４割が「作業時期を分散できる」と回答。WCS 用稲の生産者の約４割が「地域の農地を維持できる」、「省力的に生産できる」、「既存の機械を活かして生産ができる」、約３割が「畜産農家やコントラクター等に作業委託できる」、「作業時期を分散できる」と回答。

③　畑地化の意向

WCS 用稲を生産している回答者のうち「ほとんど又はすべてのほ場でありえる」及び「一部のほ場でありえる」との回答が３割。畑地化を「ありえない」とした回答者のうち、その理由として約半数は「水田は水田として利用すべき」と回答、３～４割は「収入を得られる見込みがない」、「排水性が悪い」と回答。

④　今後の作付意向

飼料用米については、「現在より生産規模を縮小し、食用作物に転換したい」との回答が最も多く、他の作物は「現在と同程度の生産規模を維持したい」との回答が最も多い。「現在よりも拡大」、「現在と同程度を維持」と選択した理由は、どの作物においても労力面との回答が最も多い。

３　地域再生協議会向けアンケート

①　地域計画における飼料生産の位置付け

飼料用米及び WCS 用稲の約３割、飼料作物（牧草）の約４割が「計画に位置付けられている」と回答。また、飼料生産組織の受託作業について、「計画に位置付けられている」と回答したのは約２割。

②　地域における意義

飼料用米及び WCS 用稲では「既存のノウハウや機械設備を活かせる」と「需要の安定による経営安定」との回答が多い。飼料作物ではこれらに加え、「地域の農地維持」との回答が多い。

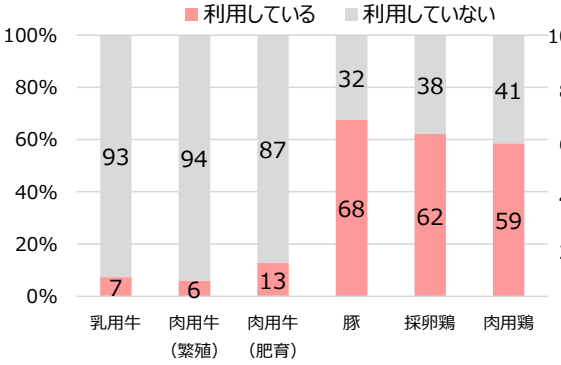
③　維持・推進上の課題

飼料用米では「実需とのマッチング」と「労力の確保」が多く、WCS 用稲と飼料作物ではこれらに加え「機械や施設の整備」「担い手の技術向上」が多い。

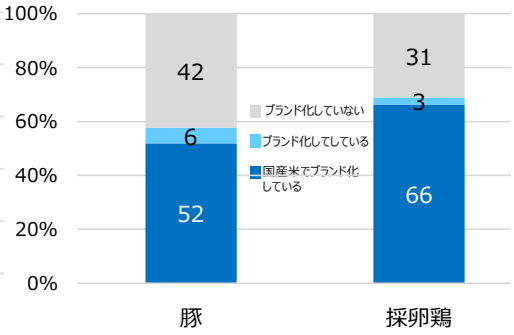
■お問合せ先
農林水産省　畜産局飼料課
電話：（代表）03-3502-8111　内線 4916
（直通）03-3502-5993

調査結果の概要：畜産農家向けアンケート

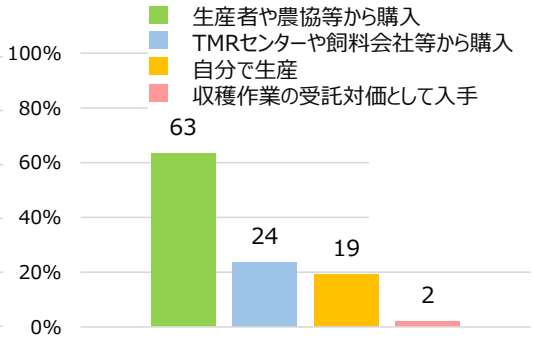
①－１ 飼料用米の利用状況



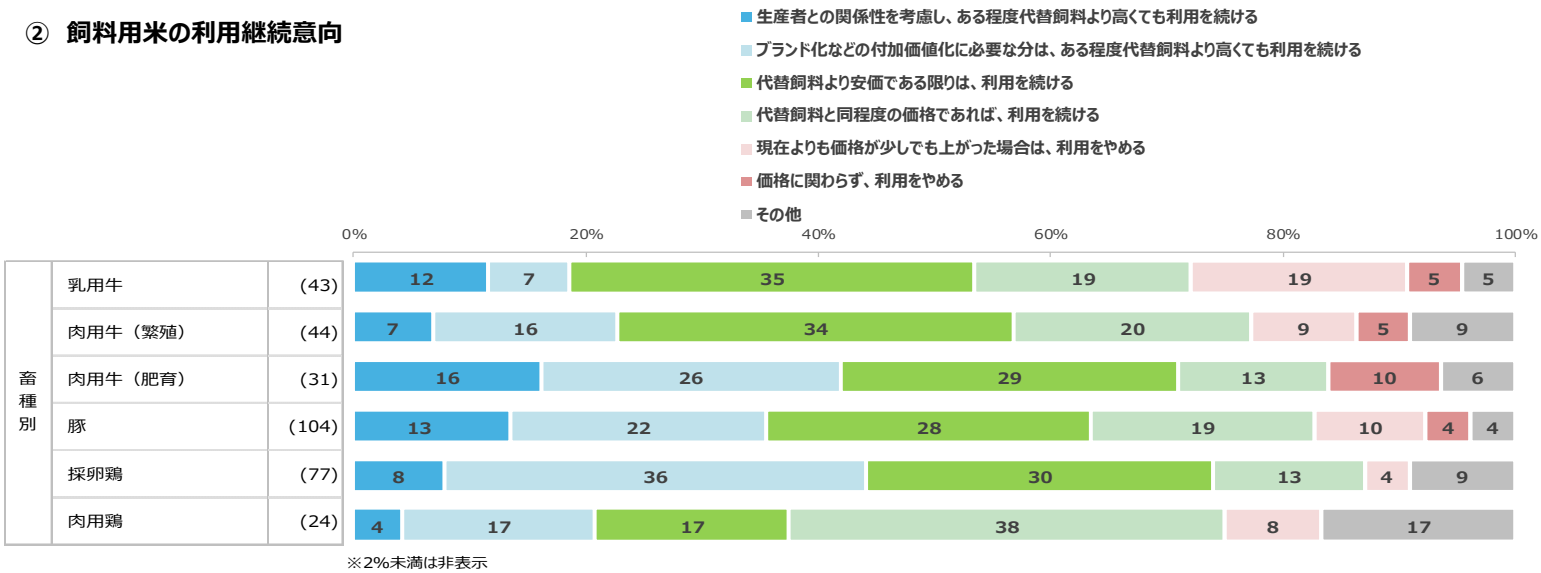
①－２ 飼料用米利用による畜産物ブランド化の取組状況



①－３ 飼料用米の入手方法（複数回答）

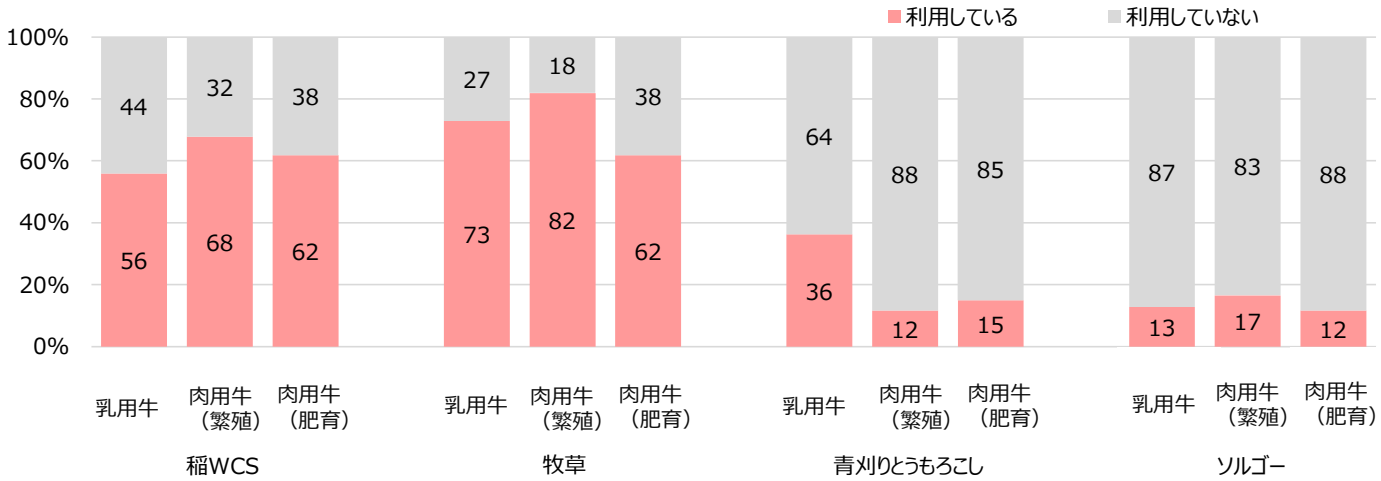


② 飼料用米の利用継続意向

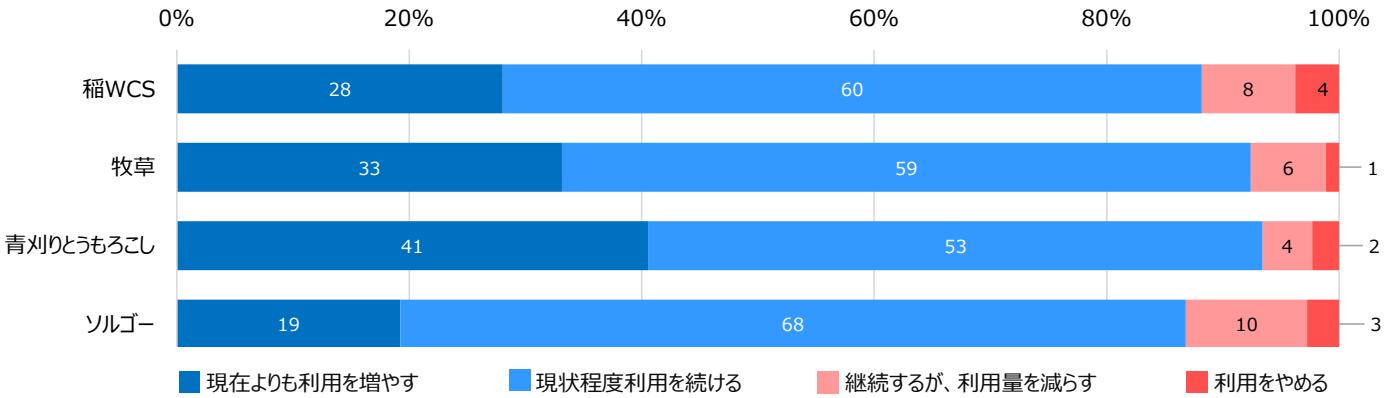


※2%未満は非表示

③ 国産粗飼料の利用状況

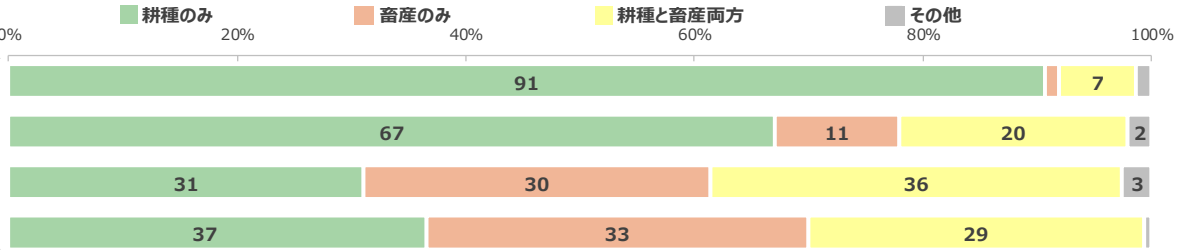


④ 国産粗飼料の利用意向（現在利用している者の回答）



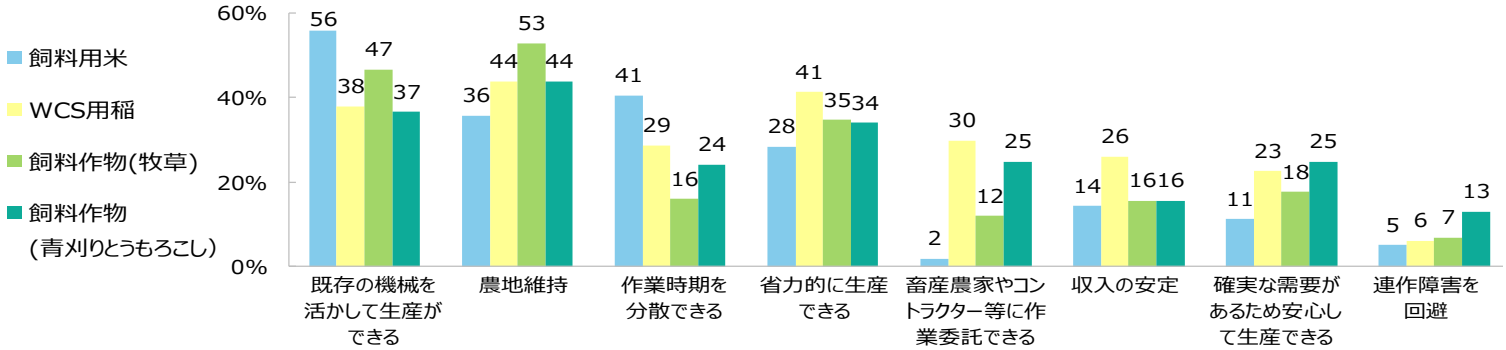
調査結果の概要：生産者向けアンケート

① 生産者の経営形態割合

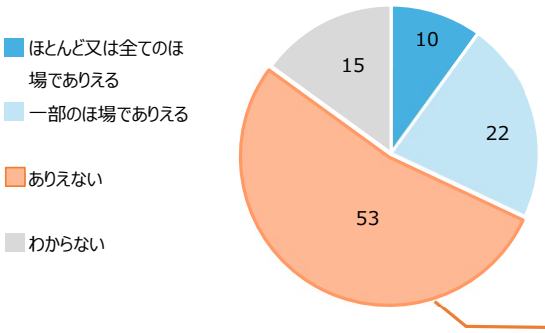


※2%未満は非表示

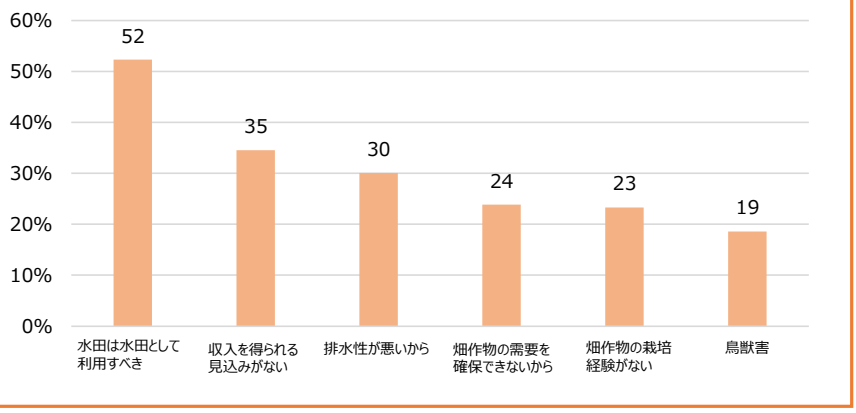
② 生産の意義・メリット（複数回答）



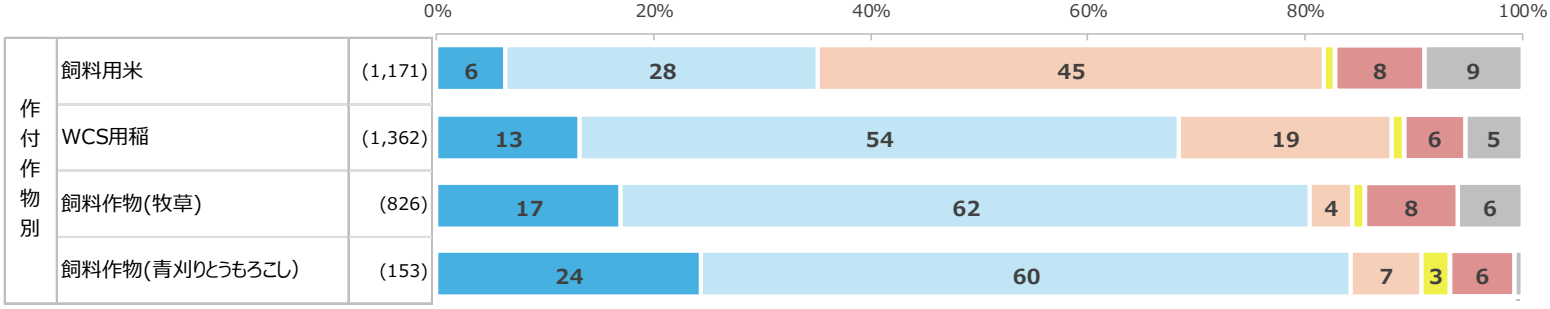
③－1 畑地化の意向（対象：WCS用稲のほ場）



③－2 畑地として利用する可能性が「ありえない」と回答した理由について（複数回答）



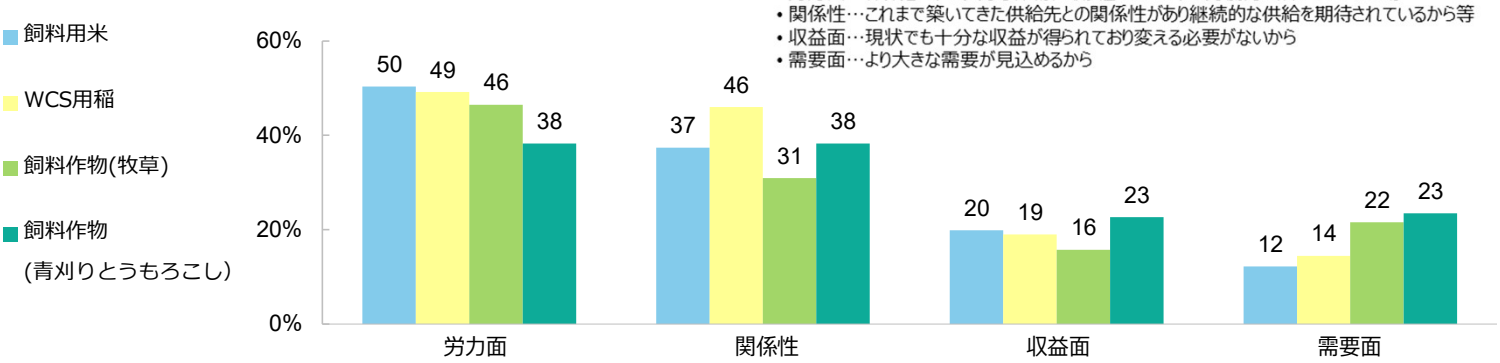
④－1 今後の作付意向



※2%未満は非表示

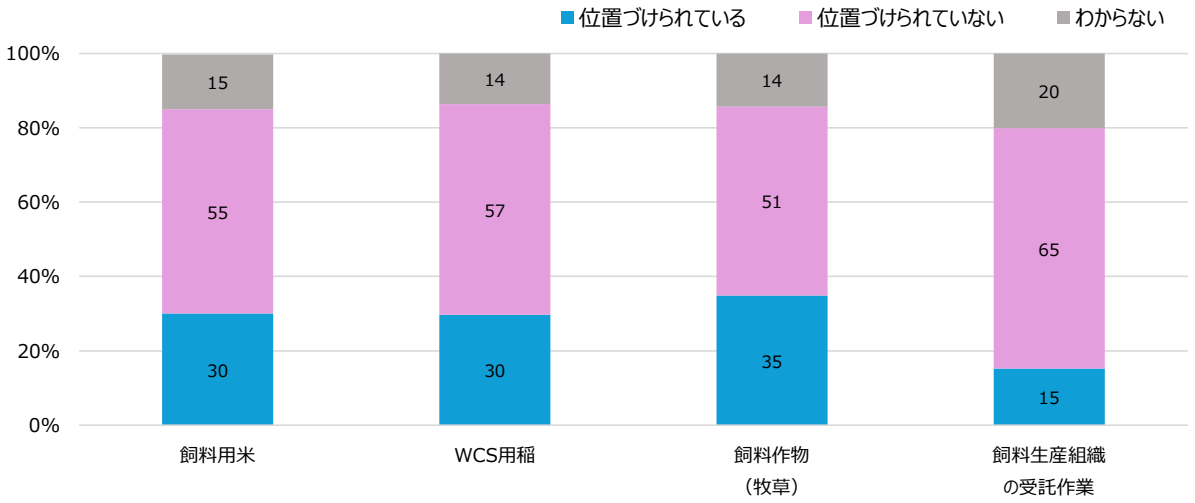
④－2 今後「拡大したい」「維持したい」と回答した理由（複数回答）

- 労力面…作業ピークの異なる作物に取り組むことで今の労働力を活かしたいから等
- 関係性…これまで築いてきた供給先との関係性があり継続的な供給を期待されているから等
- 収益面…現状でも十分な収益が得られており変える必要がないから
- 需要面…より大きな需要が見込めるから



調査結果の概要：地域再生協議会向けアンケート

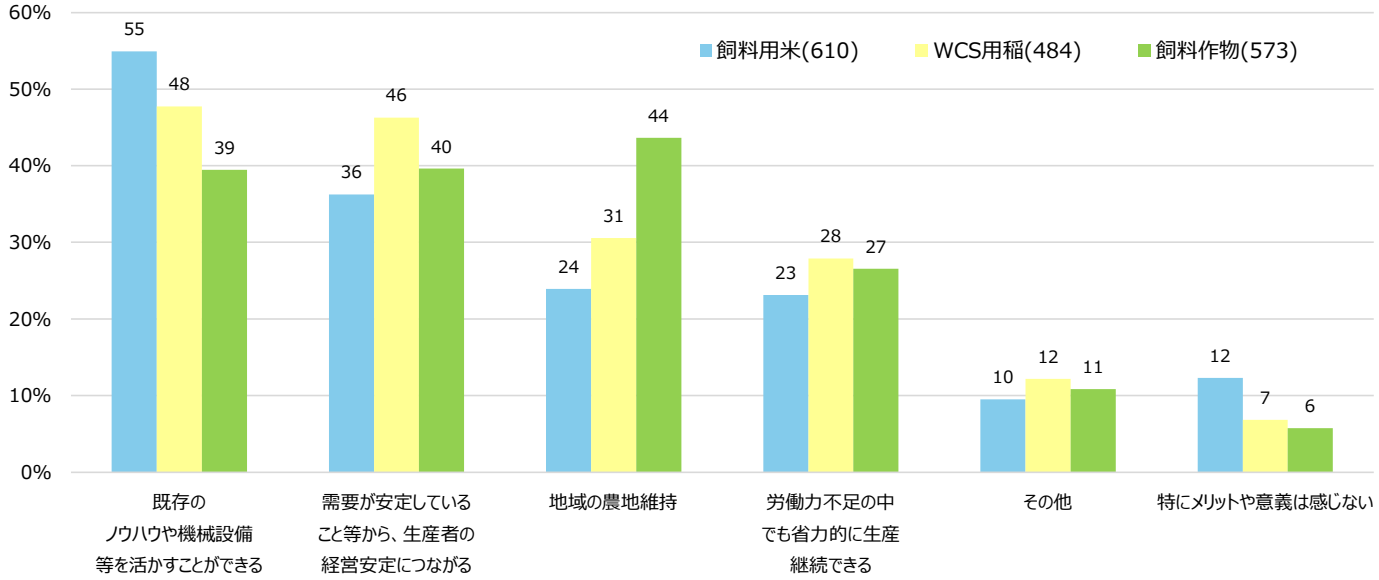
① 地域計画における、飼料用米、WCS用稲、飼料作物の位置づけの有無　※分母：回答のあった協議会数（775）



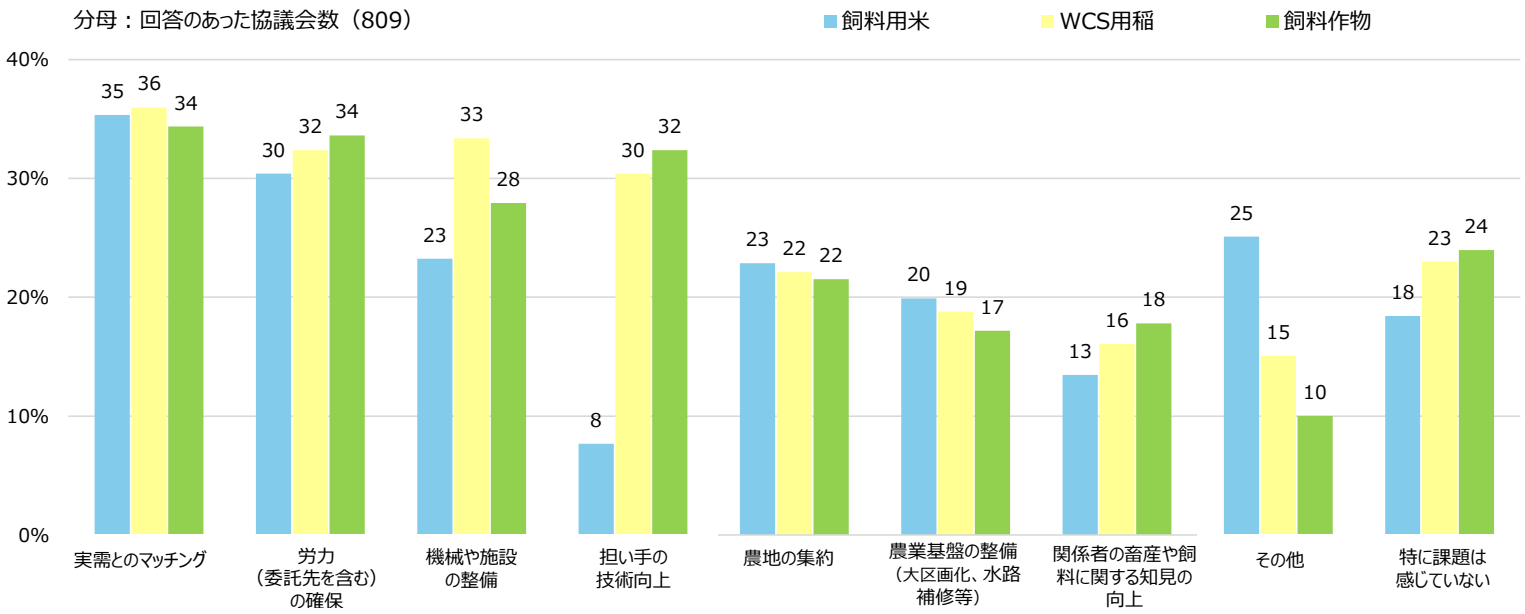
② 各作物が地域で作付けされていることの意義（複数回答）

分子：作物別の各選択肢の回答数

分母：R6以降、各作物の作付「ある」の回答数（凡例の（）の数）



③ 各作物の作付を維持・推進上の課題（複数回答）

分子：作物別の各選択肢の回答数

分母：回答のあった協議会数（809）